

神戸支店が開設九〇周年 特別見学会を開催

▼神戸支店は、六月一日に開設九〇周年を迎えました。

▼金融恐慌に見舞われていた昭和二年（一九二七）、日本銀行の第一六番目の支店、昭和に入ってから最初の支店として開設されました。戦時体制から終戦後の復興、バブルの発生と崩壊、そして阪神・淡路大震災の混乱と復興など、目まぐるしく経済情勢が移り変わりました。そうした中、神戸支店は地域経済の発展や信用秩序の維持・安定といった使命を果たすべく、努力を重ねてまいりました。

▼九〇周年を記念して開催した特別見学会では、支店長による



90周年記念ロゴ。若手職員が作成しました



支店長講話に耳を傾ける参加者の皆さん



開設90周年記念特別見学会の様相

市民講座などもあり、多くの方にご来場いただきました。神戸支店は、これからも中央銀行としての日々の業務をしっかりと行い、兵庫県経済の発展に貢献していきたいと考えています。

AI・ビッグデータ 分析に関する コンファランスを開催

▼近年急速に発展している人工知能（AI）やビッグデータ分析は、今後の経済社会に大きな影響をおよぼし得る技術として注目を集めています。これらの技術は既に幅広い分野で応用が進められており、金融への活用にも大いに注目が集まっています。このような状況下、日本銀行は四月十三日、決済機構局と金融市場局の合同による、AIとビッグデータ分析に関するコンファランスを開催しました。

▼黒田東彦^{はるひこ}総裁は開会挨拶において、AIやビッグデータ分析の応用分野として金融が注目されていることは、金融の根源的機能が「情報処理」であることを踏まえれば不思議ではないと述べました。そのうえで、これらの技術は、金融の情報処理機能の効率化・高度化や、金融活動に付随する豊富なデータの活用、環境変化への迅速な対応

などを可能とする潜在力を有すると評価しました。一方で、市場価格形成などへの影響、データ活用における情報セキュリティの確保、AIの利用に伴うガバナンスのあり方といった新たな課題も指摘しました。また、コンピューターの祖先といえる「機械式計算機」を作ったフランスの哲学者・数学者バ斯卡ルが残した「人間は考える葦^{あし}である」という言葉から読み取られる例も引きながら、人間がAIの活用について主体的に考えることや、人間とAIが補い合う関係構築の重要性などを強調しました。



コンファランス会場の様子（撮影：野瀬勝一）



黒田総裁による挨拶の様子
(撮影：野瀬勝一)

▼コンファランスでは、幅広い分野からのパネリストを招き、「AIと金融サービスの将来」「AIと金融市場へのインパクト」という二つのテーマに沿って、パネルディスカッションを行いました。パネリストからは、製造業や医療といったさまざまな分野での応用の取り組みが紹介された後、銀行業務や資産運用、市場取引など金融分野への活用に関する事例が紹介されました。そのうえで、AIやビッグデータ分析が金融サービスや金融市場におよぼし得る影響や、これらの技術が金融の新たな可能性を切り開く展望といった広範な論点について、フロア参加の方々も交えながら、活発な議論が行われました。

▼新しい情報技術が金融にさまざまな影響をおよぼしつつある中、日本銀行は今後も、新しい情報技術が金融の利便性向上や金融市場・取引の効率化、さらには経済活動の活性化に結び付けていくよう、中央銀行の立場から積極的な貢献を果たしていく考えです。

▼コンファランスの議事概要およびプレゼンテーション資料は、日銀HPの「決済・市場」↓「フォーラム・会合等」のコーナーをご覧ください。

国際コンファランスを開催

▼一九八三年以来、日本銀行は、金融研究所において国内外の著名な経済学者や中央銀行関係者を招いた国際コンファランスを開催しています。今年度は、「Monetary Policy: Lessons Learned and Challenges Ahead」（金融政策：教訓と課題）をテーマに、五月二十四日、二十五日に開催しました。

▼黒田総裁による開会挨拶に続



バーナンキ前議長と黒田総裁
(撮影：野瀬勝一)

いて、「バーナンキ前FRB議長による「前川講演」が行われた後、参加者間でテーマに基づく活発な議論が展開されました。日本銀行では、今後も国際コンファランスを通じて、中銀政策の理論と実践に関する知見を深めていきたいと考えています。

「日銀春休み親子見学会」の開催（「日銀夏休み子ども特別見学会」のご案内）

▼日本銀行本店では、三月二十八日～三十日の三日間に行ったり、小学校四～六年生および中学生のお子さまとその保護者の方を対象に「春休み親子見学会二〇一七」を開催しました。

▼見学会では、お札に関する体

験学習や本店見学などのプログラムにご参加いただき、「学校では学ぶ機会のない内容で勉強になった」などの感想が寄せられました。

▼次回の開催は、夏休み期間中の八月四日～十日を予定しています。参加は無料です。お申込み方法などの詳細は日銀HPをご覧ください。



本物と同じ1億円の重さを体験（左）。発券局の職員がお札の数え方をレクチャーする模様（右）

編集後記

■今回の編集作業も大変刺激的でありました。心臓外科医・天野篤氏とのインタビューでは、自らの経験の蓄積に基づくこれまでの常識への疑問から、オフポンプ手術というイノベーションを生み出した物語に感銘を受けました。「地域の底力」では、熊本県から震災の苦難を乗り越え力強く前進する方々の生の声をお届けします。このシリーズで県全体を取り上げたことは初めてで、取材も広域にわたり、多くの方にご協力頂きました。船橋洋一氏と櫻井審議委員の対談は、第一次・第二次大戦間期における国際秩序、貿易体制の混迷から導かれる教訓を語りながら、世界を巡る今の状況に警鐘を鳴らしておられます。編集長を拝命して以来、当誌で歴史から学ぶ教訓を扱えないかと模索していた私としては、またとない素晴らしい企画となりました。さらに議論の中で、イアン・カーショウ等の多くの歴史学者の著書の一節が飛び交い、今後の学びの糧も与えて下さいました。皆さまに、私ども編集に携わった者の感動を少しでもお伝えできればと念じております。(鶴海)

※本誌は、全国の日本銀行本店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。
(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ(<http://www.boj.or.jp/>)をご覧ください。

にちぎん 2017年夏号
編集・発行人 鶴海誠一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎03-3277-2405

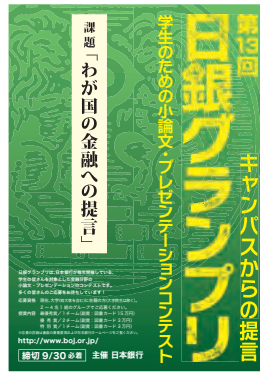


デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

「第一三回日銀グランプリ」 「キャンパスからの提言」 論文募集

応募締切：九月三十日(土)

▼「日銀グランプリ」は、学生の皆さんを対象に開催する金融・経済分野の論文・プレゼンテーションコンテストです。学



構いません。
▼書類審査を通
過したチームは、
十一月下旬頃に予

生の皆さんが金融に関心を持ち、わが国の金融の現状と将来について考えていただく場として、二〇〇五年度から毎年開催しており、今年度も応募論文を募集中です。

▼テーマは「わが国の金融への提言」です。わが国の金融に関するものであれば、どのようにテーマを設定していただいても

定している決勝大会において、日銀副総裁をはじめとする政策委員会メンバー、外部有識者の方を審査員に迎え、プレゼンテーション・質疑応答を行っていただきます。

▼当グランプリでは、Webページを設けて、募集要項や、過去の決勝進出チームの論文・プレゼンテーション資料、審査員講評のほか、奨励賞論文の要旨も掲載しています。また、昨年の決勝大会の様相を収録した動画も配信しています。

▼応募に当たっては、日銀グランプリWebページ上の募集要項をお読みください。多くの学生の皆さんからの斬新な提言をお待ちしております(日銀グランプリWebページアドレスは、http://www.boj.or.jp/announcements/nichigin_gp/index.htm/)。

【親子見学会・日銀グランプリのお問い合わせ先】
日本銀行情報サービス局
総務企画グループ
〇三・三二七・一六〇九